

沼津市

明治史料館通信

2006.7.25 (季刊 年4回発行) Vol. 22 No. 2 通巻第86号



大日本平和協会の出版物 (当館所蔵・江原素六旧蔵書)

江原素六とその周辺<41>

大日本平和協会と 江原素六

内村鑑三・幸徳秋水ら、日露戦争に際し非戦論を唱えたキリスト者・社会主義者の存在はよく知られている。しかし、それは社会の少数派にすぎなかった。それに対し、日露戦後に設立された大日本平和協会は、政界・財界・言論界・宗教界の名士を役員に揃え、より広範な支持基盤を形成し、運動を進めようとした団体である。

江原素六は、明治三十九年(一九〇六)四月一八日、その初代会長に就任、四三年(一九一〇)までつとめた。そもそも設立のきっかけは、在日アメリカ人宣教師ポールズがキリスト教界の有志に呼びかけたことにあり、江原は政界にも顔が聞く有力者として期待されたようだ。

江原は会長の座を大隈重信に譲った後も副会長にとどまったが、他にも、理事として渡瀬寅次郎・島田三郎・服部綾雄ら、沼津兵学

校・沼津藩士出身者らの顔があった(四五年時忌)。渡瀬は幹事長をつとめたともいう。大正二年(一九二二)五月、江原は名誉評議員に選任されたが、同月死去した。

大正一四年(一九二五)大日本平和協会は解散した。第一次世界大戦や朝鮮三・一独立運動など、日本が軍事行動をとった大事件に際しては、結局是認するしかなく、国策を否定することなどはできないはずもなかった。経済的基盤も弱く、江原は費用を自己負担したというが、『江原伝』講演(二五五頁)、女婿福井菊三郎(三井物産理事)に援助を依頼してもいる。協会は無力なまま、戦争へと傾く時代の流れの中に消えていったのである。

以下に引用するのは、大日本平和協会の刊行物に掲載された江原素六の論説である。忠君愛国と平和主義とが矛盾するものではないことを説き、「建設的」平和主義という現実論を述べている。今日の視点からすれば不徹底な平和論であるが、時代の制約の中では一杯の主張だったといえよう。

国際平和と日本国民

前代議士 江原素六

忠君愛国の精神は、日本国民の根本道徳にして、殆んど建国以来終始一貫渝ること無く、恐くは又永遠の未來に伝へて悖る所なき美德なるべし。只世人往々にして忠君愛国の真義を解せず、誤つて之を偏狭固陋なる島国根性と混同し、若くは之を曲解して世界人道の精神と柄鑿相容れざるやの感を抱く者あるは、実に大なる謬見と謂はざるを得ず。忠君愛国の精神は決して世界人道の思想を矛盾衝突する者にあらずして、寧ろ之と互に補足し融合して始めて其真義を發揮する者なり。維新以来、今上陛下に開国の皇謨を垂れ給ひ、智識を四海に求め、交誼を列国に厚うし、内は一人人の發達に努められ、外は列国輯睦の基礎を固うせられ、偏へに天下民衆をして平和を樂ましむるを念とせられたり。不幸にして屢干戈を動かすの止むなきに遭逢したりしも、皆是れ一国防護の爲め、東洋平和の確保の爲めにして、平和を思ふの聖慮は、暫くも渝り給ふ事なかりき。畏けれども、陛下の聖慮は、即ち臣子

の心にして、日本国民の最大多数も亦平和の愛護者を以て、自ら居所高からずんばならず。蓋し陛下の思召しを濟すは臣子哀情の喜びとする所なれば也。近くは万国平和會議に参列の命を蒙りたる都築大使に対し、下し給へる大詔を拜誦するも、如何に、今上皇帝の世界平和に眷々あらせらるゝやを恐察し奉るに難からず。上に暴君庸主ありて侵略を惟れ念とする邦国と全く異りて、我が日本帝国の臣民は同心一体、人類全般の幸福を増進する正義公道の爲めに努力を傾倒するを得るは実に至幸と謂はざる可からず。忠君愛国と博愛人道は日本の国情毫も矛盾する所なく、忠君愛国の精神を推拡して、博愛人道の事業に貢献するは、寧ろ君子の本分たる所以の理は明かに了悟す可き所なり。

本来偉大なる国民と謂ひ国家と謂ふのは、必ずしも領土の拡大、富力の充実、軍備の強盛を指すものにあらず。真に偉大なる国家と国民とは、その道徳的品質と、その世界文明に寄与する程度とに依

に於て日本国の前途は、実に洋々の前途を有すと謂はざる可からず。国家民人の奮励努力に依つて、人類の進歩に貢献する事業は、その成功一朝一夕に求め難く、全く不測の向上心に依る。而して此の種の事業多々ありと雖、戦争の禍殃を絶ちて人類同胞の真義を發揮せんとする平和事業の如きは、最も重要にして崇高なる者と謂ふべし。日本国民は由来仁心に富むと称す。この仁心を開展して世界人類の幸福を謀るは、素より自然の要求たらざらんや。日本国民は由来平和を愛すと称す、平和の愛護者たる自覚は、焉んぞ単に他国の侵襲に依つて始めて喚起せらる可けんや。太平無事の日に於て特に之を愛重する精神を發揮す可き筈なり。故に予は日本国民を挙げて、平和運動の旗を負ふの義務と責任の存するを想ひ、之を喜ひとする気風の天下に普ねからんを冀ふ。況んや時代の要求、人道の使命、刻々に吾人を警醒するものあるに於てをや。

平和主義にも二種類あり、一は破壊的にして一は建設的なり。絶

対的に非戦論を唱へ単に戦争を呪詛し軍備を攻撃し、之に依つて平和主義の主張となす者は、破壊的論者なり。此主張の中には素より大なる真理を包蔵せざるに非ず。その人心を啓発する効力は素より藐視す可きにあらざるも、吾人の立場は之と異れり。吾人は此種の破壊論に依つて、戦争の遂に廃絶し難く、平和の容易に期待し難きを信ずる者にして、吾人の希望は一に建設的平和説に繋る。建設的平和説とは、根本的に戦争に依つて起る原因を救治し、又国際間の紛争を解決すべき實際的設備を完成し、又努めて軍備と戦争とに伴ふ禍害を減縮せんとするに在り。この根本的にして且つ實際的なる問題の解決法を講明し、之に依つて戦争の惨禍より人類を救ひ出さんとするは吾人の根本目的にして、単に破壊的言論を弄ふは吾人の本旨にあらず。我が大日本平和協会は、極めて幼稚なる団体なり。その勢力は今日に在りては素より微々たる者なり。然れども此建設的平和主義の鼓吹に依つて、天下有識者の賛助を得、その勢力を増

進して前途の使命を成就せんことは、吾人夙夜の祈願にして、又日本国民衷心の志望と信ずる所なり。『平和会員』は宜しく斯の道の為めに奮つて努力す可き者なり。

日本国は戦捷の光榮に依つて、世界一等国の班に列するを得たり。然れども文化の産物に於て、又国民の品性に於て、深く自ら顧みる時に、誰か向上進修の必要を痛感せざる可き。今日の民情に於て、吾人は猶ほ未だ世界的風格の熟せざる所多きを想ふ。外国人に対する礼儀の美習すらも猶ほ甚だ欠けたる所あり。平和協会はその事業の一面に於て世界の市民としての国民的品性を作るべき任務を有せずんば非る也。(大日本平和協会『平和論集』、一九一二年刊)

〔参考文献〕坂口満宏「国際協定型平和運動―『大日本平和協会』の活動とその史的位―置―」『キリスト教社会問題研究』三三、一九八五年)、『近代日本「平和運動」資料集成』(二〇〇五年、不二出版)、『信仰の人江原素六先生』(一九五二年、一九七三年覆刻)

(樋口雄彦)

シリーズ
沼津兵学校とその人材

77

剣豪伊庭八郎の親戚 伊庭 真

心形刀流の宗家伊庭家は剣をもつて幕府に仕えた家である。戊辰戦争では伊庭八郎(秀穎)が遊撃隊を率い新政府軍と戦い、箱館五稜郭に死したことは有名である。

遊撃隊は箱根でも戦ったが、その直前には沼津在の靈山寺に滞在していた。また、八郎の弟想太郎は、静岡藩に属し遠州横須賀に移住した後、亡兄の親友中根淑を頼り、沼津の中根塾に入った。

伊庭家と沼津とのゆかりはそれ以外にもあった。六代目八郎次秀長が興した分家があったが、秀長の孫真(環助・想輔・惣造・想造)は沼津兵学校第四期卒業生となっているのである。真の孫伊庭長之助氏の教示によれば、一八五二年

の生まれで、真は「まこと」と読むとのこと。真は、八郎の父軍兵衛秀業の従弟にあたる。

真の履歴は、明治二年に作成された履歴明細(海舟日記に挟み込まれた文書、『勝海舟関係資料 海舟日記(三)』所収、東京都江戸東京博物館、二〇〇五年、二〇二―二〇三頁)から判明する。名前は伊庭想輔、元高五〇俵三人扶持で、巳年当時二七歳、安政四年五月御徒見習↓万延元年二月御軍艦乗組動番↓文久三年九月父家督↓同年二月神奈川奉行支配定番出役↓慶応二年五月二丸火之番、即日別手組出役↓同年二月銃隊↓三年一月銃隊差図役並勤方↓明治元年七月御人減につき御広間組差図役下役という内容である。

他の文献からも、慶応二年五月七日平岡鑑之助組御徒神奈川奉行支配定番出役から二丸火之番に転じたことなどがわかる(『近世庶民生活史料 藤岡屋日記』第十三巻、



伊庭 真
(伊庭長之助氏所蔵)

一九九四年、三二書房、五三九頁。
慶応四年七月作成の「駿河表召連
候家来姓名」では、広間組差図役
下役として伊庭想輔の名がある。
父秀房（兵助・庄助・秀勝）は慶
応四年閏四月五日に没しており、
真が当主となっていた。長男秀栄
は慶応三年二月の生まれであり、
幼児を抱え、妻や母とともに沼津
に移住したと想像される。

真は沼津兵学校廃校まで残留し、
明治五年五月上京、教導団に編入
された。しかし、軍隊生活に馴染
めなかったであろう、八月には
仲間七名とともに身体虚弱を理由
に退寮願を提出している。その後
東京で商業に従事したが、明治二
三年（一八九〇）九月八日亡くな
った。法名は託生院一誉蓮真居士。
妻と母も同月中に亡くなっており、
コレラによるものだった。

長男伊庭秀栄（昭和一四年没）
は帝国大学医科大学卒、産婦人科
の専門医となった。次男孝（一八
八七〜一九三七）は、本家伊庭想
太郎の養子となり、演出家・音楽
評論家として活躍した。

中根淑は、八郎や想太郎と親し

かっただけでなく、別の伊庭分家
とは遠縁にあたることもあり、伊
庭家の家系や動静について詳しく
あった。中根は伊庭真についても、「兵
助の伴を環助といつて維新後沼津
の学校に入り後東京で商業をして
居ましたが夫婦同時にコレラで死
にました」と後年語っている（「伊
庭ものがたり2」『二六新報』明治
34年7月6日）。

ちなみに、沼津病院調役に伊庭
熊太郎、明治六年頃作成の沼津城
内原図（杉山周蔵旧蔵・沼津市明
治史料館所蔵）に伊庭秀興の名前
があるが、真との関係は不明。

ついでに、沼津藩士には、初代
藩主水野忠友が心形刀流を学んだ
ため、召し抱えられた伊庭家があ
ったが（尺之助・丈之助など数代
続く）、宗家の分家か門弟に師の姓
を名乗らせたのであろう。維新の
際には真や想太郎と入れ替わり、
沼津を出て行ったことになる。

本稿では、本文中に示したもの
以外に、『伊庭八郎のすべて』（新
人物往来社、一九九八年）、貞源寺
墓石（矢口祥有里氏調査・教示）
などを参考にした。（樋口雄彦）

お知らせ欄

◎平成十八年度第一回企画展

「近世・近代 沼津医療事情」

沼津兵学校の付属施設として設
立された「沼津病院」は我が国最
初の洋式病院といえるもので、兵
学校廃校後も沼津の地に残り、駿
東病院と名称を変え、地域医療を
担ってきました。

本展では、「沼津病院」を中心に、
その前史として江戸時代の沼津の
医療事情、また明治・大正・昭和
の沼津地域の医療事情と関連資料
を紹介します。

とくに、沼津病院・駿東病院で
使用された外科手術用具（メス・
鋸）は、幕末期に徳川慶喜が買い
求めた舶来の品で、非常に貴重な
ものです。ぜひご覧ください。
会 期…7月15日(土)〜9月28日(木)
会 場…当館展示室

◎歴史講演会

企画展「近世・近代沼津医療事
情」と関連する歴史講演会を開催
します。多数のご参加をお待ちし
ております。

講 師…高橋 敏氏（国立歴史史

俗博物館名誉教授・沼津
市史編集委員）

「近世の流行病と地域の
人々」

上杉 有氏（沼津史談会々
員）

「佐々木次郎三郎とその時
代」

日 時…9月9日(土)13時〜15時

会 場…当館2階講座室

定 員…100名

参加費…無料

申 込…受付中

当館まで電話または直接

◎高校生のための

一日学芸員体験講座の開催

日 時…8月8日(水)10時〜15時

対 象…市内在住・在学の高校生

定 員…10名（先着順）

参加費…無料、昼食持参

申 込…7月26日(火)9時から

当館まで電話または直接

沼津市明治史料館通信 第86号

編集 沼津市明治史料館

発行 沼津市西熊堂三七二一

〒410-0051 沼津市西熊堂三七二一

電話 〇五五・九二二・三三三五

FAX 〇五五・九二二・三〇一八

http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/meiji/index.htm